

米軍に使い捨てられた生命の宝庫「やんばる」 「真の世界遺産」へ

日本で新たな世界自然遺産として鹿児島県の奄美大島、徳之島と沖縄県の沖縄島北部、西表（いりおもて）島の4地域が7月26日登録されました。沖縄島北部（国頭〈くにがみ〉・東〈ひがし〉・大宜味〈おおぎみ〉の3村）は、米軍北部訓練場の一部返還された地域が含まれています。返還地調査に同行すると、米軍に「使い捨てられた」負の遺産の姿がありました。（写真・記事 山形将史）

「あっ、ありますね」。赤土色の土壌を指さすチョウ類研究者の宮城秋乃さん（43）。米軍が使用した弾薬類が新たに見つかります。この日だけでも6発の不発弾と空薬莢（からやつきょう）が見つかり、野戦食のごみが次つぎと出てきます。放射性物質を含んだ汚染廃棄物も放置されたまま。ドラム缶が投棄された土壌から有害なPCB（ポリ塩化ビフェニール）が検出されています。

宮城さんは2017年12月から金属探知機などを駆使して米軍の廃棄物を発見し、警察に通報。米軍や沖縄防衛局には北部訓練場ゲート前での抗議行動や政府交渉で回収を呼びかけてきました。しかし、継続した回収の動きがありません。「このまま隠ぺいするつもりなのか」と憤ります。

米軍廃棄物は劣化して細かくなり、土壌に交じり、森で活動する生物の体内に取り込まれる可能性もあります。「捨てた者が片付ける。当たり前のこと。そして北部訓練場の全面返還が必要です」

日本政府は一部返還に伴い、東村高江の集落を囲むように六つのヘリパッド（離着陸帯）新設を強行しました。森を伐採して離着陸帯を造成。新たな道も切り開かれ、MV22オスプレイがあらゆる方角から飛来するようになったといえます。

「ヘリパッドが新設され、植物が枯れていくのを目にしてきた」と話す日本共産党東村議の伊佐真次さん。「命をはぐくむ森と相反する人殺しの訓練をする米軍がいる。返還時の米軍の原状回復義務を免除している日米地位協定を抜本改定し、『真の世界自然遺産』をめざすべきだ」と語ります。(akahata2021.8.31)

